えいしょうざん

No. 36

発行所　栄昌山　立光寺
豊岡市日高町江原28番地
〇七九六－四二－〇四一八
編集者　堂前貫修

旧年中は何かとお世話になり誠に有り難うございました
本年も変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申しあげます
令和六年　甲辰　元旦

令和五年の元旦は甲子からはじまります。年は甲辰、月は乙丑で、毎日の始まりが甲子になります。甲子はすべての始まり、物事の始まりを表し、大黒様は、一年に約5回または6回ある甲子の日にご祈願すると願いが叶うとされています。

甲子は六十年に一度の十干十二支のはじまりです。

十干は甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸で、甲は木の陽・乙は木の陰・丙は火の陽・丁は火の陰・戊は土の陽・己は土の陰・庚は金の陽・辛は金の陰・壬は水の陽・癸は水の陰です。

暦では五行という万物の循環と方向性を示すものがあります。木材は燃焼して火が起こります。火はが燃え終わり残る物は灰で土になります。土の中から金属が抽出され、火の熱で溶かされて用途に応じた器になります。その器には気温の変化で結露現象が起こり器に水滴が生じます。生まれた水は木を育てます。

このように木→火→土→金→水という理にかなった方向性（相生）が生まれ、これに陽の気と陰の気が重なって十干となります。

逆にお互いに気というエネルギーを打ち消してしまう相殺というものがあり、金×木（金属でできた斧は木を切り倒す）火×金（火は金属を溶かす）土×水（土は水の流れを堰き止める）木×土（木は根を張って大地を破壊する）水×火（水は燃えさかる火を消す）とされ、相生と相殺は物事の働きかけの判断材料にされます。他に比和がありますが割愛します。

十二支は、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥で、一般的にはそれぞれが動物の印象を表し、独立しているように思えますが、本当は植物の種が芽を出して生長し、種子を作って次世代に命を繋いでいく循環を十二の段階で表しています。

大地に種子が落ちて芽が出はじめた状態が子、やがて葉や枝が出て成長していきます丑・寅・卯はその字形から双葉が開くような感じがします。辰・巳・午・未は植物の生長の極限を表し、申・酉・戌・亥は蓄えたエネルギーを次世代の種子に生み出す様を表しています。亥は核となり種子の中にエネルギーを包含することをあらしています。

干支は十干と十二支で出来た言葉です。この周期は六十年とされ、この干支を過ぎた次の年を還暦といいます。数え年の六十一歳になったら暦上の再誕となり、赤ん坊の姿をしてお祝いし長寿と除災得幸をお祈りします。

今年は元旦から甲子、2日は乙丑と規則正しく毎日が変化していきます。干支は、今日この日が、どんな性質のエネルギーが関わり、そのエネルギーを受ける物がどのような状態であるかを示しています。

その外に九星の一白水星・二黒土星・三碧木星・四緑木星・五黄土星・六白金星・七赤金星・八白土星・九紫火星に、二十八宿と十二直等が加わって、個人は勿論のこと万物の吉凶を占いますが、それぞれを解説すると話が長くなりますので割愛し、移転・動土などがありましたら住職にご相談ください。

日蓮聖人は建治二年（1276）御年55歳の時、身延山で書かれた「光日房御書」にて、

「いよ〳〵強盛（ごうじよう）に天に申せしかば、頭の白き烏とび来りぬ。彼燕（かのえん）のたむ（丹）太子の馬、烏のれい（例）、日蔵上人（にちぞうしようにん）の、山がらすかしらもしろくなりにけり我がかへるべき期や来ぬらん、とながめしこれなりと申しもあへず、文永十一年二月十四日の御赦免状、同三月八日に佐渡（さど）の国（くに）につきぬ」

（意訳）鎌倉幕府は牢につながれていた日蓮の弟子たちをただちに赦免しました。しかし日蓮にはいまだ赦免がありませんので、さらに強盛に守護なきことを諸天に申し聞かせますと、頭の白い烏が飛来してきました。これは何事かと考えてみますと、むかし燕（えん）の国の丹（たん）太子が秦の国に人質になったとき、秦王が戯れにもし白頭の烏があらわれ、馬に角が生えたならば許そうといったのを丹太子が祈り、ついに白頭の烏があらわれ、馬に角が生じて本国へ帰ることを許された例があります。また日蔵上人が「山がらすかしらもしろくなりにけり我かへるべき期や来ぬらん」と詠んだことなどを思い合わせ、自分の帰る時期も近づいたのであろうかと考えていますと、文永十一年（一二七四）二月十四日に赦免状が下り、それが三月八日に佐渡の国へ届いたのです。

日蓮聖人は暦や易にも明るい方であったと伝えられています。偶然ではなく必然としてこの現象をお待ちになっていたのでしょうか

前途が全く解らない、飢えや寒さ、命の危険にさらされながら、社会から拒絶された二年半の佐渡島流罪の中で、ひたすらにお題目を唱え、法華経を読誦されました。

生きて再び鎌倉の地に戻り、日本国のために、飢饉疫癘に苦しむ民衆のために、法華経を広宣流布し、立正安国世界平和な世の中になることを祈り、身をもって実践されました。

あなたと私の尊い「いのちに合掌」

信行ある家庭には礼あり
菩提寺の行事に参加して
家庭信行に励みましょう

本堂正面　宗祖 700 遠忌で建立されました

広い境内　駐車場も巨大です

参道入り口の宝塔　バス停

第 2 世開基　釈英儀上人

嘉永2年5月11日、京都伏見宇治郡小栗栖村の幡山市郎兵衛の三男として誕生。6才の時、京都伏見に、日蓮宗本教寺で出家。住職の釈英慈上人は、英儀上人を養子にします。明治9年に得度。同15年から高僧に就いて宗学を研究、7年間勉学に励み紫衣袈裟を授けられました。卒業後、妙光寺第8世住職となり、23年、同じ日高町の立光寺第22世住職として招かれ、29年には、勝妙寺第31世住職になり、この間年の28年には「布教伝道、寺門経営の功」により、身延山から「権大講義」という栄誉を与えられています。英儀上人はかねてから、日蓮宗の宗勢が他宗派に比べて振るわないことを嘆いていましたが、たまたま北海道旭川市で日蓮宗教所住職の後任がなくて困っているという話が伝わり、北海道に渡る決意をします。まだ31歳でした。

その後、日露戦争などの苦難の中、約20年懸命に努力され、北海道旭川に日蓮宗屈指のお寺を建立されました。大正7年8月1日に御遷化。享年52歳。

残念ですが、近代の立光寺の歴史からも忘れ去られていた高僧です。これからは、住職がこのように延寿山妙法寺に参拝が出来た不思議な御縁を大切にして、釈英儀上人の御遺徳を語り継いでいきたいと思います。

庫裏の廊下 50㍍はありそうな

除雪用の重機　冬期は気温が－10 数度になるそうです

鐘楼堂と日蓮聖人の銅像

向かって左から先代住職、住職、一人挟んで奥様、大奥様

巨大な本堂裏の雪止め　降雪量が想像できます　旭川は凍結と降雪のため墓地を建てられるお家が少ないと聞きました多数の方は境内の納骨堂に奉安されるそうです

妙法寺歴代上人の霊廟、第 2 世開基、真乗院日円上人から墓碑に刻まれています

第 36 号　えいしょうざん（正月号）　令和 6 年 1 月 1 日

日蓮宗聲明師養成講習所の講師を務めました

聲明師養成講習所の法要　合計 23 回の法要　朝 6 時から夜 9 時までずっと実践練習です

住職は、9月2日から8日まで、北海道旭川市の妙法寺で一週間行われた日蓮宗聲明師養成講習所の講師に任命され、聲明師を志す40名の男女の僧侶の法要指導のお手伝いをさせて頂きました。

聲明師は、日蓮宗法要儀式全般を習得して日蓮宗の僧侶に指導する僧侶で、養成講習所は、日蓮宗の法式・聲明・作法・読経・信仰など僧侶にとって大切な根幹を習得実践する養成機関です。

2日初日の開講式直後から8日の朝勤まで朝夕勤11回と法要実習12回の合計23回の実践練習が行われました。一回生20名と二回生20名がそれぞれに法要に出る人、法要を支える人に別れ、お一人お一人が一週間で約10回出座され、お役に当たっていなくても脇座で法要に出仕。まさに全力を出して毎回、約一時間の法要を勤められました。法要の趣旨も導師を務められた方の心が籠もった先師・諸霊位の追善回向があり、有難く素晴らしい法要が行われました。

私が声明師養成講習所に参りましたのはちょうど40年前。「あれから40年！」と綾小路きみまろさんが流行させましたが、今回、講師として初めて飛び込んだ養成講習所でしたが、講習生とともに学んで習ったいろいろなことを大いに勉強させていただいた一週間でした。

講師としては、出座されたお一人お一人の、声明の音調・発声・音量・音色・作法・態度・迫力等を聴聞し、足りないところを伝え、一日一日を大切にして、最終日の講習生全員で行う模範法要に活かせるように指導させて頂きました。

また会場の延寿山妙法寺様は、栄昌山立光寺と御縁が深いお寺です。

明治三十年頃に、豊岡市日高町鶴岡の妙光寺第8世から立光寺第22世になられ、その後、豊岡市九日市勝妙寺第31世を経て、北海道の開教をされ、妙法寺第2世開基上人になられた、釈英儀上人こと真乗院日円上人がおられました。

これからは妙法寺さまの歴史のページを要約拝読し釈英儀上人のことをご紹介します。

本堂に奉安の子連れの鬼子母神様　怖い表情の善神様です

大きな本堂です　内陣は 2 段になっています

辰年のことわざ

登竜門（とうりゅうもん）

「竜門」は、中国の黄河中流の急流、ここを登った鯉は竜に化けるという言い伝えから、困難であるが、そこを突破すれば立身出世できる関門の意、また運命を決める大切な試験のこと

辰巳下がり

言葉がおだやかで上品なこと、またそのさまのこと

竜は一寸にして昇天の気あり

優れているものは、幼い時から非凡な才能があるということ

竜が雲を得る如し

竜が雲を得て天に昇るように、英雄豪傑が機に臨んで盛んに活躍するさま

足元から竜が上がる

身近なところで突然意外なことがおこること、また急に思いついて物事をはじめること

時至れば蚯蚓も竜になる

時流に乗って地位を得れば、才能がない者でも権威をふるうようになると言うこと

竜馬のつまずき龍の駒にもけつまずき

どんなに優秀な馬でも時にはつまずくことから、名人も賢人でも、失敗して間違いを犯すというたとえ

竜の鬚を蟻が狙う

自分の弱小な力量を顧みずに、強大なものに反抗すること、また、大それた計画や無謀なことをするたとえ

2月3日　立光寺節分星祭りのご案内

2月3日午後7時30分から、立光寺本堂にて、毎年恒例の節分星祭りを奉行いたします。詳細は、同封の案内状のとおりです。

この節分星祭りは、除厄開運の御守護神である妙見大菩薩に法味を捧げ、私たちが健康で息災に生活ができますように御祈祷を申しあげる祭礼です。

人は、10年を周期として運勢を巡回すると言われています。よって毎年、それぞれに御守護の守護星が代わります。守護星は、日曜星、月曜星、火曜星、水曜星、木曜星、金曜星、土曜星、計都星、羅喉星です。悪き星回りには悪しきことが起こらぬように守護され、善き星回りには好転の余り、過失が起きぬよう慎みを促される星神です。

どうぞ「節分星祭ご案内」の「星祭申込用紙」に御家族御一同様の御名前・生年月日・性別・数え年・備考欄（祈願）をご記入の上、1月25日までに立光寺へお申し込み下さいますようご案内申し上げます。

※ プラスチック製品・金属製品等、不燃物のお焚き上げはご遠慮下さい。

第55回護法大会覚性寺で開催

今年の護法大会は、4月29日（昭和の日）午前10時から和田山町の覚性寺で開催の予定です。京都から近畿教区檀信徒研修道場主任講師を務められた護国寺住職上田尚史をお迎えし、高座説教をしていただきます。後日、兵庫県北部宗務所からご案内があります。どうぞお誘い合わせの上、多数の御参加を頂きますようお願い申しあげます。

令和5年1月14日（日）午前10時00分 初講会・檀信徒総会

お誘い合わせの上、ご参詣ください

但馬信行会

但馬信行会は10月中に開催されます。後日、兵庫県北部宗務所かご案内があります。お誘いあわせ多数の上、ご参加をお願い申しあげます。護法大会と同様にお寺から送迎バスを用意いたします。

寒行のお知らせ

1月20日（土）から1月26日（金）の一週間、午後2時から立光寺本堂で寒中修行をいたします　どうぞ、お誘い合わせの上ご参加くださいますよう御案内申しあげます。

立光寺女性会入会募集中！

立光寺女性会は、毎月12日の「立光寺信行会」を活動日として信行と親睦を深めています。お気楽にご参加下さい。